

6年後を夢見て



にしむら ひさゆき
西村 久幸さん（久礼田）

にこにこライフ

114



料理はお任せ



やまもと なおこ
山本 直子さん（大浦乙）

家族は4人で、娘一家と一緒に住んでいます。

縫い物が得意で、エプロンを作ったり着物を洋服に仕立て直したりしています。すそ直しもできますよ。

料理も好きです。第2回空弁コンテストでは、優秀賞をいただきました。1回目の時から興味があったので、2回目の開催を知り、娘と一緒に参加しました。メニューは、孫がおいしと褒めてくれたミョウガごはんからヒントを得て考えました。ちらしずしなどの和風の料理が得意で、地区の運動会のお疲れ会で腕を振るったりもします。

「おばあさんのみそ汁は一杯千円で、売れる」とお孫さんお墨付きのみそ汁を、一度味わってみたいものです！

「夢は教えるが指導者として帰ってきたくれ」と語る西村さん。夢が叶うまで指導者として頑張ってください。

親子クイズ 452

Q 市立学校の写真です。
①～④の学校名を教えてください。



【第451回解答】

松ぼっくり（松かさ）

- 応募締切／1月15日(金)必着
- あて 先／☎783-8501
南国市大浦甲2301
南国市企画課「親子クイズ」係
- 賞品／正解者の中から抽選で、5名に
図書カード(1,000円)を贈呈
- ★応募総数／43通 ★正解率／91%

【第451回当選者】

伊藤 淑 さん（大浦甲）
宗我部心音 さん（大浦乙）
井上嵯知子 さん（後免町）
井上 幸雄 さん（稲生）
井上 美恵 さん（緑ヶ丘）

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

総合型地域スポーツクラブ「まほろばクラブ南国」



新春スポーツ教室

新年の目標に何か運動を始めませんか？ 気軽に運動を楽しめる教室です！

いきいき健康体操教室

簡単なステップ台などを使ったフィットネスです。足腰を鍛えませんか！

- とき／1月13日(水)、20日(水)、27日(水)、2月3日(水)、10日(水) 13:30～14:30
- ところ／スポーツセンター
- 講師／有安裕美
- 対象／大人20名程度
- 会費／1,500円（5回分・保険料を含む）
- 申込締切／1月11日(月)

ヨガ教室

- とき／1月18日(月)、25日(月)、2月1日(月)、8日(月)、15日(月) 13:30～14:30
- ところ／スポーツセンター
- 講師／濱田泰行
- 対象／大人20名程度
- 会費／1,500円（5回分・保険料を含む）
- 申込締切／1月14日(木)

スポーツ吹矢教室

- とき／1月19日(火)、26日(火)、2月2日(火)、9日(火)、16日(火)、23日(火) 14:00～16:00
- ところ／スポーツセンター
- 講師／岡林寿男
- 対象／大人20名程度
- 会費／2,000円（6回分・保険料を含む）
- 申込締切／1月15日(金)

そのほかにも、「太極拳教室」と「ボール体操教室」を開催します。詳しくは、お問い合わせください。

※申込先・お問い合わせは
スポーツセンター内「まほろばクラブ南国」
☎865-8015まで

人権教育シリーズ 92

人権教育シリーズ

もし、部落外の人が、出産のために病院に行こうとしたところ、たまたま通りがかった「部落」で陣痛が起こって出産したら、生まれた子どもは「部落民」になるのかどうか。

野中広務・辛淑玉著「差別と日本人」の中に出てくる問いである。部落差別の成り立ちには多様だと考えられるが、この本の中に出てくる答えは、「部落民であること」というものであった。なぜかという、それを決めるのは差別をする側だからだ。そこに合理的な判断基準はない。人々は、自分に都合のよい基準をもっともらしく設定して差別を繰り返す、と著者は訴えている。

中学校の歴史教科書を見みると、幕末のころの日本の総人口は推定で約3200万人であり、その内訳は、百姓が約85%、武士が約7%となっている。全体から見れば、ごく一部である武士の生活を支えたのは大多数の百姓からの年貢だった。当時は、今のようには科学も発達しておらず、十分な収穫が得られないことも多く、食糧を十分に確保することが難しく、当然、百姓は不満をもったことであろう。

「誤った優越感」

幕府は、百姓の不満をそらすために身分制度を利用した。「自分たちよりも下の身分の者がいる。それを思えば我慢しなければ」。人は、自分よりも強い者から存在価値を否定されたとき、劣等感をもちたたりたりしたとき、自分の劣等感を払拭するために、自分より弱い者を差別することで傷ついた心のバランスをとろうとする。ここに、部落差別をはじめとするあらゆる差別を支える心のメカニズムがあるのではないだろうか。あの人よりはましな暮らしをしている、この人よりはましな学校に行っているなど、私たちの心のなかにも、誤った優越感がないかどうか、チェックしていく必要があるかもしれない。

*このシリーズは、私たち一人ひとりが自分を大切に、互いに認め合って、かけがえのない人生を幸せに生きるために、日々の暮らしの中で、人権について多様な視点で考えることを目的にしています。

※お問い合わせは
人権啓発広報委員会
☎880-6569まで